



昨年中は、多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
今年度も地域の皆様に貢献できるよう努めてまいります。
至らないことも多々あるとは思いますが、お引き立てのほど
宜しくお願いいたします。



みなさんはどんなお正月を過ごされましたか？
年末が近づいてくると、あちらこちらで県外ナンバーの車を見かけました。一緒に
年末のお買い物に出かけたりして、普段一人暮らしをしているお母さん方も心な
しか嬉しそうで、ほっこりします。集落にこんなに人がいれば、限界集落、過疎化問
題も解決できそうでいいなと思う反面、故郷を後にした人たちの分まで自分たち
で頑張れるところは、やらないといけないなど、気を引き締める思いでした。

集落や各委員会では、役員改選などで頭を悩ませる機会も多いことと思います。区長に誰がなるか決まらなかった。役員を頼みに行っても区長さんは大変だ、役員をしたことがないからわからない、パソコンがないからダメだと断られる、町内の集まりに男性が行くと指名されるから、奥さんが行く。などの話を多く聞き、区長さんの仕事って大変なことは身近で目にしてきましたが、周り当番や選挙で選ばれていることが多いようです。



高校 3 年生で町内会長

鹿児島市で、当時 17 歳の高校 3 年生だった金子陽飛(かねこはるひ)さんが町内会長に就任し、4 年間努めました。

役員のなり手不足という地域の課題に対して、若者がやることで地域が盛り上がるならと自ら立候補したそうです。



この他にも、富山県富山市、福井県の JK 課など、担い手不足や民放改正により 18 歳が成人となったことで役職へのハードルが下がったことなども考えられます。

若者ならではの柔軟な発想やデジタル化の推進、世代間交流といったメリットがある反面、学業との両立や経験不足といった不安要素も考えられます。

高校生に任せて大丈夫?と思われるかもしれませんが、しかし彼らが地域に関わることは未来の住民を育てることにもつながります。

私たち大人が教えるだけでなく、彼らから教わる姿勢を持つことで集落全体がもっと元気になるはずです。

『もし集落で高校生がお手伝いをしてくれるなら、何を手伝ってほしいですか? 若い世代に伝えておきたい、地域の自慢は何ですか?』



すなやま支援員だよりについてご意見、ご要望がございましたら、お気軽にお問合せください。E メールアドレス: sunayama.shien@gmail.com

